

陶芸、花等による「にしやまの里」の地域活動

地域の方々の集う場の提供や入所者の生きがいと地域ニーズをふまえた作業の実施を通じて、地域の活性化と入所者の処遇向上に努めている。陶芸では、施設の陶芸棟を利用し、作品作りを楽しんだり、公民館等で陶芸教室を開催したりしている。また、園芸では、園芸ハウスで花苗を育て、学校等に提供するなど各種作業に取り組んでいる。

社会福祉法人 **白皇山保護園**

〒939-2376 富山県富山市八尾町福島10

TEL：076-455-2660 / FAX：076-455-2661 / E-Mail：yatsuoen@cty8.com

【法人の概要】

法人設立年：昭和32年11月

経営施設、事業（数）：3施設 3事業

経営施設、事業（種別）：

救護施設…1 / 知的障害者援護施設…1 / 地域交流ホーム…1

【法人の理念・経営方針】

身体上又は精神上の障害等で在宅生活が困難な方に対し、入所または通所していただき、個性と人格を尊重しながら、生活に必要なサービスを提供している。

実施施設の概要

施設名：八尾園

施設種別：救護施設

活動開始年：平成3年

活動の頻度・時間：月15（回）、1回あたり4（時間）

活動の対象者：地域の高齢者、住民、利用者



陶芸作品作り（陶芸）

活動実施の背景、実施にいたった理由

「社会性と人間性を豊かにし、生きがいのある生活を送る」という、施設の生活方針を掲げ、ブロック作業、陶芸作業、園芸作業、室内作業などの各種作業に取り組んでいる。利用者は作業を通して生きがいを持ち、また社会参加を実現し、利用者と施設が持つ専門技術を地域へ還元することにより、地域から信頼され、愛され、また責任感を持ち、活力のある生活が送れると考えている。八尾園では地域住民に親しまれ、信頼されるようにさまざまな活動を行っている。

実施内容

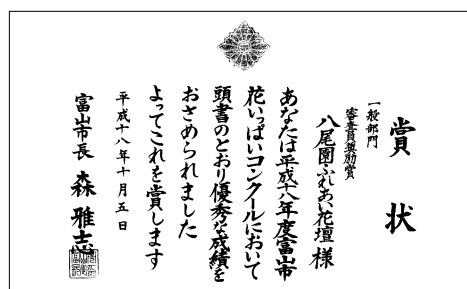
地域の方々が集える場として地域交流ホーム「にしやまの里」を創設した。気軽に利用でき、大浴場を楽しめることからたくさんの方が利用している。独居老人の昼食・交流会、各種団体・グループ等の研修や行事に利用してもらっている。陶芸棟では、陶芸の愛好者が施設を利用し作品作りを楽しんだり、公民館・小学校・健康福祉センター等で陶芸教室を開催している。施設の窯で焼いた花瓶・傘たて・お皿等は作品展・福祉の店・イベントで販売している。園芸用ハウスでは花苗を育て、ボランティア団体・小学校・公民館・老人会等へ提供している。また観賞用の鉢花を無料で公共施設に配布している。さらに、花の街道づくり・花壇づくりにも取り組んでいて、各種コンクールで入賞している。

活動効果

多種多様な障害のある利用者が、潤いのある快適な生活を送ってもらうために様々な取り組みを行っているが、このような地域活動は、長年にわたって改良・工夫されてきたもので、利用者の希望も取り入れ、準備も利用者に協力してもらい、利用者の生きがいになっているものも少なくない。地域の人たちにとっても大変喜ばれており、活動に対してよい評価をいただいている。

◆◆ 今後の課題

救護施設に入所する利用者は、一般に劣等感や疎外感を持つことが多いと言われる。潤いのある生活を送るためには、利用者自身が、社会から、施設から、職員から、そして同じ施設の利用者から、「あなたは必要な人」と思われ、役割を得られることが、大切なことであると思われる。



◆◆ 主な経費や財源の内訳 (年間あたり)

＜利用状況＞					
にしやまの里		陶芸		花	
年間利用者数	2600名	年間利用者数	500名	鉢花配布数	6ヶ所250鉢
利用日数	140日	利用日数	100日	花苗配布数	20ヶ所3000株
＜主な経費＞					
にしやまの里		陶芸		花	
事務費	120千円	事務費	30千円	事務費	20千円
事業費	1,200千円	事業費	2,080千円	事業費	380千円
合計	1,400千円	合計	2,110千円	合計	400千円
＜主な財源＞					
にしやまの里		陶芸		花	
施設負担額	1,200千円	施設負担額	400千円	施設負担額	400千円
利用料	200千円	利用料	1,710千円	利用料	0千円
合計	1,400千円	合計	2,110千円	合計	400千円



独居老人の昼食招待 (にしやまの里)



保育所へ花苗配布 (花)